

高峰高原（湯の丸高峰と浅間山の自然動物）

湯の丸-高峰高原（ゆのまる-たかみねこうげん）の森林および湿原生態系は、ニホンカモシカ（ウシ科に属する毛むくじゃらの動物）など、人里離れた標高の高い場所以外ではめったに見ることのできない数々の動物を育んでいる。20 世紀中頃、ニホンカモシカは狩りによって絶滅寸前になったが、1955 年に希少野生動物種に指定されて以降は個体数が回復し始めた。蹄が割れているニホンカモシカの足跡はシカの足跡に似ており、冬場には雪の上でよく目にすることができる。高原にはこの他にも、イタチに似たオコジョや、イヌワシ、ホシガラス、ノスリなどの生き物が生息している。

また、低い標高ながらも高山植物が生息するという湯の丸-高峰高原独特のその生態系によって、多くの高山性昆虫の命が支えられている。たとえば、一部の高山蝶の幼虫の中には特定の植物のみを食べるものもいるため、池の平湿原（いけのたいらしつげん）や湯ノ丸山近くのツツジ畑などの一帯は、そのような昆虫の貴重な生息地となっている。夏にはさまざまな種類の蝶が花々の間を飛び回ることから、これらのエリアは野生生物写真家たちにとって人気の場所となっている。その中でも特に希少な種は、ミヤマモンキチョウ、ベニヒカゲ（褐色とオレンジ色をしたジャノメチョウ科の蝶）、ミヤマシロチョウ（白い羽に黒いすじが入ったシロチョウ科の蝶）で、いずれも天然記念物に指定されている。長野県では、ミヤマモンキチョウとベニヒカゲは準絶滅危惧種に、ミヤマシロチョウは絶滅危惧種に指定されている。